

2022年度 自己評価結果公表シート

学校法人 京新学園
太秦幼稚園

1. 本園の教育目標

「知」・「徳」・「体」・「食」のバランスのとれた保育を教育方針とし、幼児教育を行っている。
「知」・・・知恵、考える力を育てる
「徳」・・・善悪の判断を自分でできる子どもに育てる
「体」・・・健康な体に育て、十分な体力をつけさせる
「食」・・・食に関心をもち、感謝する心を育てる
この精神を基にして、先生や友達と一緒に幼児期に必要な経験を積むことで、人との信頼関係やコミュニケーション能力を育て、意地悪をしない正しい心、人を許せるやさしい心、嘘をつかない強い心、謝ることのできる素直な心を持った心豊かな子どもの育成を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教育目標の具現化を図るため、教職員どうしの意見交換の場を設け、教育の質を高めるとともに、本園の中・長期のビジョンに沿った運営を図る。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育の質の向上	①行事前の事前打ち合わせや昨年度の行事反省を基にして更に改善を図り、今年度へ繋げる意見交換や見直しを図れた。 ②園独自の園内研修、また臨床心理士からの専門的知識を含めた研修会を増やせた。個々の園児への配慮の仕方も含め、日々の保育に取り入れるなど保育の質の向上に繋がった。
2. 子育て支援の環境づくり	①未就園児保育やプレクラスから入園後を見据えて、年少児の保育の流れに沿った朝の会やカリキュラムを取り入れることで、椅子に座る習慣が早い段階から身につく戸惑わないような配慮ができた。 ②臨床心理士の定期的訪問に加えて、保育現場で生かせるアドバイスをもらうなど実践や環境構成の改善に繋がられた。専門的立場からのアドバイスを保護者と共有し連携することができた。 ③満3歳児保育開始に向けて準備を進められた。
3. 異年齢児との交流など	①延長保育では普段の保育にも生かせる遊びを中心とした内容を増やしたことでレパートリーが増え、集団遊びの幅が広がった。ルールのある遊びを通して、異年齢で関わり教え合える機会が増えた。 ②園庭での自由遊びや、降園時の園庭遊びでは自然と異年齢児の交流が出来る。 ③作品展を通して縦割りクラスで関わり、異年齢同士でも協力し合うことができていた。

<p>4. 危機管理 ・安全管理</p>	<p>①安全マニュアル「ヒヤリハット」に加えて、バス乗降時の「ヒヤリハット」マニュアルの見直しや都度話し合える場を設け、環境整備を行えた。</p> <p>②登園後のクラスでの出欠確認と保護者からの Brein 連絡を合わせて、園児の所在確認の徹底を図った。</p> <p>③園外保育での災害時の避難の仕方なども指導案に組み込むなど、施設側へも確認を行い職員間で共通理解ができた。</p> <p>④プール入水時の安全管理についての職員共通理解や園児への避難のしかたも職員間で共有し、実際に入水している時に子どもへも避難の仕方についても伝えることができた。</p>
--------------------------	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>・学年毎の会議や反省会を充実させ、経験の浅い保育者も意見しやすい環境を目指している。また、指導力を上げるため動画を撮って指導改善に繋がられた。</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
1. 保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修に加えて、各機関と交流できる研修に参加し様々な分野での質の向上を目指す。 ・園内で学びたい事や知りたいことを話し合い、園内研修の充実を図る。
2. 異年齢児との交流など	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、延長保育での交流が普段の園庭遊びやクラス遊びでも生かされ、広がっていくように工夫する。 ・作品展を通して、思いやる優しい心を育てたり、頼られる嬉しさを感じられるようなカリキュラム設定を立てていく。
3. 危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園外に行った際、安全に引率できるよう下見を行い、ポイントを見直す。 ・防犯マニュアルの見直しや熱性けいれん時の対応の仕方など、園内研修を定期的に取り入れ、職員間で共通理解を徹底する。 ・園外保育、移動教室時には点呼を行い人数確認を引き続き行う。
4. 子育て支援の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ことりキッズやプレクラス利用の方へもキンダーカウンセラーを周知し、子育て相談等、多く利用してもらうようにする。

6. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・バス乗降時の危機管理・安全管理の対応が早く、子どもを安心して預ける事ができた。 ・満3歳保育が始まり、異年齢との交流が更に深まった。 ・時代や環境の変化に沿った改善案の提示があり、今後の保育・指導にも期待が持てた。 ・満3歳児保育が始まり、様々な年齢の子供たちがいる中で、これまでの先生方の努力のおかげで、各年齢に合った保育を実践できていると感じます。 ・ニュースとなった他園のバスの取り残し事件に関して、早急に安全装置をつけるなど、安心して子どもを預ける事ができています。 ・コロナ禍が過ぎ、マスク着用がほとんどないため、保健だよりの活用を求める声がチラホラあります。コロナをはじめ、夏の感染症、冬の感染症など、クラスで3名出たらシルフを流したり、クラス単位ではなく、園で流行りだした感染症などを保健だよりにするなどあれば、各家庭で気をつける事ができ、流行を抑える事に繋がると感じました。
